2015.8.26　8月例会用資料

ASK歩く会
谷根千・本郷巡り(その2)

世話人(金作・原田・大出・稲田)

開催日　　２０１５年7月２８日(火)　晴れ

出発　　小田急線　新百合ヶ丘駅

　　午前　　9時

解散　　午後　20時（懇親会　登戸駅）

参加者　　17名

コース

新百合ヶ丘駅 ⇒根津駅 ⇒ はん亭 ⇒弥生式土器発掘ゆかりの地碑 ⇒ 弥生二丁目遺跡(東大浅野キャンパス) ⇒ 三四郎池 ⇒ 本郷中央食堂(昼食) ⇒ 赤門 ⇒ 樋口一葉櫻木の宿跡 ⇒ 落第横丁 ⇒ ⇒ 胸突坂 ⇒ 一葉ゆかりの質屋⇒ 小石川植物園 ⇒茗荷谷駅 ⇒登戸駅(懇親会) ⇒　新百合ヶ丘駅

はん亭

21世紀の幕開けに道路の拡幅が施行され、木造の佇まいが削り取られこの様な『かたち』になりました。
『矢来』の大通り側が＜茶房はん亭＞
路地から裏通り側が＜串揚げ処はん亭＞

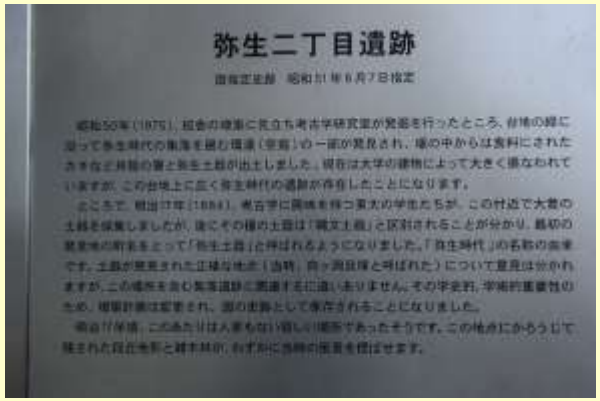
本郷台地の眺望

縄文人、弥生人となって段差の体験

弥生式土器発掘所ゆかりの碑

1884(明治17)年、貝塚から縄文式土器とは異なるつぼが発見され、この弥生の地にちなんで弥生式土器と命名され、このことからこの時代を弥生時代と呼ばれるようになった。

弥生二丁目遺跡



都心部における弥生時代の数少ない貝塚を伴う遺跡として重要であることが評価され、昭和51年（1976）に「弥生二丁目遺跡」として国の史跡に指定された。
しかし、弥生式土器の発見地は特定するにいたっておらず、現在も調査研究が進められてる。

弥生二丁目遺跡

浅野キャンパス正門に掲載されている説明

三四郎池

寛永6年（1629）4月、前田家3代藩主利常の時に、徳川3代将軍家光・大御所秀忠の御成（訪問）があり、それに先だって豪奢な御成御殿や数寄屋を新築し、庭園を整備したと考えられる。この庭園が育徳園で、池を心字池といった。夏目漱石の名作『三四郎』は、ここを舞台としたため、「三四郎池」と呼ばれるようになった。

安田講堂

安田講堂前の広場の下に中央食堂はある。

本郷中央食堂 (昼食)

かつ丼 400円

地下1階の食券機や窓口で食券を購入して地下2階に下り、厨房の周りのカウンターで商品を受け取る。
席は地下2階で、厨房を中心として放射状に並べられている。

赤門前

修学旅行中の岐阜の高校生とコラボ

樋口一葉ゆかりの櫻木の宿跡

明治9年（1876年）、樋口家は法真寺隣の地に越してきました。現在、真寺境内手前の駐車場になっている場所に「桜木の宿」はありました。この時は、姉のふじも最初の嫁ぎ先から戻ってきており、両親、二人の兄、そして妹と、家族全員がそろっていて、父親の則義の事業も順調で、経済的にも家庭的にも最も恵まれていた時代だったのです。

落第横丁

郁文堂の手前に「落第横丁通り」という小さな通りがある。写真で見られるとおり、特に目立つ通りではないが、大通りに比べ静かです。落第のショックを受けた頭を歩きながら冷やすのには、良い通りかも知れません。
この辺りには、戦前の建築物も残っております。

胸突坂

落第横丁を道なりに進むと、左手に旅館鳳明館本館があり、そこから胸突坂を急激に下ります。更に進むと、坂下部は緩やかになり、菊坂に出る。
この胸突坂は、ちょっとした風情がある坂道です。

一葉ゆかりの伊勢谷質店

近くのゑちごやで小倉アイスをゲット

小石川植物園

旧東京医学校本館前で

江戸幕府により、薬になる植物を育てる目的で開園された小石川御薬園が前身の日本最古の植物園 。
小石川植物園となったのは、1877年に東京帝国大学（現東京大学）が開設された際に附属施設として改称され、同時に、一般にも公開されるようになった。

ご静聴有難うございました

尚、８月２１日(火)に、麻生区近郊散策として大和市の泉の森・ふれあいの森を散策しました。